

平成 9 年 度

環境白書



福 井 県

※ 平成9年度版環境白書の84頁下表に一部誤りがありますので、
裏面のシートを剥がして本表をお貼りください。

環境政策課

番号	名 称	所 在 地	番号	名 称	所 在 地
①	久 沢	和泉村久沢	⑭	八ツ俣	越廼村八ツ俣
②	麻那姫	大野市若生子	⑮	厨	越前町厨
③	広 野	今庄町広野	⑯	宇津尾	今庄町宇津尾
④	小 原	勝山市北谷	⑰	旅 塚	大野市堂島
⑤	新 庄	美浜町新庄	⑱	大 島	大飯町大島
⑥	上竹田	丸岡町上竹田	⑲	長 野	和泉村長野
⑦	吉 峰	上志比村吉峰	⑳	上河内	鱒江市上河内
⑧	足羽川	福井市・美山町・池田町	㉑	所 谷	美山町所谷
⑨	釣 姫	小浜市田島	㉒	湯 尾	今庄町湯尾
⑩	新庄粟柄谷	美浜町新庄	㉓	中 島	大野市中島
⑪	上竹田河内谷	丸岡町上竹田	㉔	中 手	美山町中手
⑫	末	福井市末	㉕	剣ヶ岳	金津町清滝
⑬	清滝	金津町清滝	㉖	奥野々	南条町奥野々

平成 9 年 度

環 境 白 書

はじめに



私たちの日常生活や事業活動は、資源やエネルギーの消費によって支えられていますが、一方でこうした社会経済活動そのものが環境に負荷を与え、従来の大気汚染や水質汚濁等の環境汚染に加え、廃棄物やダイオキシンの問題から、地球温暖化、オゾン層の破壊といった地球規模の環境問題など大変多様化した環境問題を引き起こしています。

まさに、このことが今日の環境問題を大変難しくしているわけであり、その解決のためには、何よりも私たち一人ひとりが、現在および将来の環境について考え、生活様式や大量生産、大量消費、大量廃棄といった社会経済システムを環境への負荷の少ないものに変えていくことが必要となっています。

このような観点から、県では、昨年3月に「福井県環境基本計画」を策定するとともに、昨年12月には、21世紀初頭を見通した新たな指針として「福井県新長期構想—ふくい21世紀ビジョン—」を策定し、「安全で安心な、環境と調和した社会の創造」を重点戦略の一つに位置づけ、環境問題への積極的な対応を目指しているところです。

社会全体が環境への負荷の低減に取り組む「環境にやさしい社会」を実現することは一朝一夕には困難ですが、県としては、環境基本計画に基づき、総合的・計画的に環境保全施策を推進し、豊かで美しい環境福井の創造を目指していきたいと考えております。

「環境は未来からの預かりもの」と言われますが、美しい緑ときれいな空気、そして清らかな水に恵まれた福井の環境は、私たちが生活していく上での大切な資源であると同時に、将来の世代に引き継ぐべき貴重な財産です。

今回の白書は、本県における環境の現状および環境保全施策の取組みと今後の方向を中心に取りまとめたものです。県民の皆様が、今日の環境問題と私たち一人ひとりの日常の活動との関わりについて、改めて考えていただく上で、本書が少しでもお役に立てば幸いです。

平成10年3月

福井県知事

栗田幸雄

目 次

第1部 今日の環境問題と環境行政の展開

第1節 環境問題の動向	1
1 変化する環境問題	1
2 深まらない環境保全意識	1
3 進めなければならない社会経済システムの変革	2
4 新たな環境汚染物質	3
第2節 本県環境行政の動き	4
1 国における環境行政の展開	4
2 本県の環境行政の動き	4
第3節 課題と方向	8
1 有害物質による環境汚染の未然防止	8
2 廃棄物・リサイクル対策の推進	9
3 地球環境問題に対する取組み	9
4 質の高い環境の創造	10
5 環境の保全と創造をめざした参加型社会づくり	10

第2部 環境の現況

概 況	11
第1節 自然条件	11
1 位置	11
2 地形	11
3 気候	11
第2節 社会条件	12
1 人口	12
2 経済	12
3 土地利用	12
第1章 大気環境	13
第1節 大気汚染の概況	13
第2節 大気汚染物質別の状況	14
第3節 大気汚染発生源の状況	19
第2章 水環境	21
第1節 公共用水域の水質汚濁	21
1 水質汚濁の概況	21
2 水質汚濁の現況	23

第2節 地下水汚染	30
1 地下水の特性	30
2 地下水汚染に関する法整備	30
3 監視体制	31
4 県内における地下水汚染の状況	32
5 地下水汚染対策	32
第3章 騒音・振動・悪臭	33
第1節 騒音	33
第2節 振動	34
第3節 悪臭	35
第4章 地盤環境	36
第1節 地盤沈下	36
1 地盤沈下の概況	36
2 水準測量による地盤沈下の変動状況	36
3 観測井による地下水位および地盤沈下の変動状況	37
第2節 土壌汚染	38
1 農用地土壌汚染	38
2 一般土壌汚染	38
第5章 廃棄物	40
第1節 一般廃棄物	40
1 ごみ処理の状況	40
2 し尿処理の収集および処理状況	41
第2節 産業廃棄物	43
1 県内発生状況	43
2 処理処分状況	44
3 広域移動状況	46
4 産業廃棄物処理業の状況	46
5 産業廃棄物処理施設の状況	47
第6章 自然環境	48
第1節 自然環境保全地域	48
第2節 自然公園	48
第3節 野生鳥獣	49
第7章 都市環境	51
第1節 景観	51
第2節 都市公園	53
第8章 地球環境問題	54
第1節 地球環境問題の概要	54
第2節 オゾン層の破壊	54
第3節 地球の温暖化	54
第4節 酸性雨	55
第9章 日本海重油流出事故の影響	56

第10章 環境に対する県民の意識	57
------------------	----

第3部 環境施策の総合的・計画的推進

第1章 健康で文化的な生活を営むことができる環境の実現	62
第1節 大気環境の保全	62
1 固定発生源対策	62
2 移動発生源対策	65
3 大気汚染状況の監視	66
第2節 水環境の保全	70
1 産業系排水対策	70
2 生活系排水対策	77
3 閉鎖性水域の水質保全	79
4 水質浄化能力の維持・回復	82
5 水資源の維持	83
6 水質異常時対策	83
第3節 土壌・地盤環境の保全	85
1 安全な土壌の確保と地下水の保全	85
2 地盤環境の確保	87
第4節 有害化学物質対策	90
1 排出抑制対策	90
2 調査・研究の充実	93
第5節 騒音・振動・悪臭の防止	96
1 騒音・振動防止対策	96
2 悪臭対策	98
第6節 廃棄物・リサイクル対策	100
1 廃棄物の減量化・再資源化	100
2 廃棄物の適正処理	101
3 廃棄物の適正管理	102
第7節 災害時・緊急時における環境保全対策（日本海重油流出事故）	103
第2章 自然と共に生きることができる環境の実現	105
第1節 生物の多様性の確保	105
第2節 多様な自然環境の保全と回復	108
1 貴重な自然の保全	108
2 森林資源の保全・整備	109
3 農村環境の保全	110
4 水辺環境の保全	110
第3節 自然とふれあえる場の確保	112
1 自然公園等の整備	112
2 森林や水辺等とのふれあい	113
第3章 快適な日常が実感できる環境の実現	118

第1節 潤いとやすらぎのある環境の形成	118
1 ゆとりある空間の確保	118
2 緑豊かなまちづくり	119
第2節 良好な景観の形成	122
1 美しい親しみやすい景観の形成	122
2 環境美化意識の醸成	124
第3節 歴史的文化的環境の形成	125
第4節 土地利用の適正化	125
第4章 地球環境保全への貢献	130
第1節 地球環境問題への取組み	130
1 地球温暖化の防止	130
2 オゾン層の保護	136
3 酸性雨対策	137
4 その他の地球環境問題に対する取組み	139
第2節 国際環境協力	139
第3節 循環型社会づくり	140
1 リサイクルの促進	140
2 省資源・省エネルギー	140
第5章 環境の保全と創造をめざした参加型社会の基盤づくり	143
第1節 自主的な活動の推進	143
1 環境教育・学習の推進	143
2 自発的な活動の支援	149
3 環境情報の提供	151
第2節 環境配慮のための基盤づくり	152
1 環境影響評価	152
2 公害防止協定	159
3 経済的手法の活用	159
第3節 調査・研究の推進	162

資 料 編

1 年表	165
2 環境保全関係組織	181
3 大気関係資料	189
4 水質関係資料	222
5 騒音・振動・悪臭、地盤沈下、廃棄物関係資料	284
6 総合的施策に関する資料	308
7 環境用語の解説	318